

1. 科目名 (単位数)	音楽実践演習Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3145
2. 授業担当教員	本野 洋子		
4. 授業形態	演習、講義, 実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽実践演習Ⅲ」では「音楽Ⅲ」での学びを受け、より実践的な演習を積むことで、幼稚園実習や就職後の保育活動での実践力、指導力を磨く。具体的には、新しい子どもの歌はリズムも和声も難しいものが多いので、それらを理解し、指導する力を養う。保育者としての適切な指導を行えるよう、自身の音楽表現力を磨き、子どもの歌をアレンジし、楽器や身体表現する術を学ぶ。また、歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画実践することで、子どもとともに創作的な或いは即興的な音楽活動が行えるようになる。		
8. 学習目標	1. 子どもの歌、子どもの発声についての理解を深め、自ら正しく演奏できる。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができる。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できる。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	① ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ② こどもの歌、手遊び歌、リズム活動を主とした遊び歌等のレパートリーを増やす。 ③ コードネーム等授業内で課された理論課題を実施し、提出すること。 ④ 音楽劇など総合的な活動の企画発表 適宜に「弾き歌い」、「手遊び歌」等の発表を行い、現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習とする。		
10. 教科書・参考書・教材	1年から3年まで使用してきた楽譜 他に必要な資料を配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの発声指導に関する知識を身につけ、自らも正しく演奏できるか。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができるか。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できるか。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高められたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表 総合点の30% 2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表 総合点の30% 3 弾き歌いの発表 総合点の20% 4 授業への取り組み (学習意欲・学習態度など) 総合点の20% 上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、「音楽Ⅲ」での学びを受け、より実践的な演習を積むことを目指しています。新しい子どもの歌はリズムも和声も難しいものが多く、それらを理解、指導する力を養い、自身が保育者としての適切な指導力を持つため、自身の音楽表現力を磨き、子どもの歌をアレンジし、楽器や身体表現する術を学んでいきます。従って自主的で積極的な授業への参加を望んでいます。		
13. オフィスアワー	最初の授業時に通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：本科目の概要と学習目標 個々に応じた弾き歌い課題提示	事前学習	一年次から使用している、子どもの歌曲集の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。
		事後学習	第1回目に指導された事柄を復習して練習する。
第2回	個人指導を中心とした弾き歌い① 個別レッスンを1回課す。 特に子どもの興味・関心・季節を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選び順次レパートリーを増やしていくようにする	事前学習	第1回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第2回目に指導された事柄を復習して練習する。発声の仕方について、復習する。
第3回	個人指導を中心とした弾き歌い② 個別レッスンを1回課す。 特に子どもの興味・関心を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選ぶ	事前学習	第2回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習する。
		事後学習	第3回目に指導された事柄を復習して練習する。
第4回	個人指導を中心とした弾き歌い③。 特に生活の中での歌を考える。 次回発表の課題について留意点などをポイントに練習する。	事前学習	第3回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第4回目に指導された事柄を復習して練習しておく。
第5回	ピアノ弾き歌い発表演奏	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習

	トーンチャイムの演奏方法① トーンチャイムについて、その仕組みと奏法について学習する	事後学習	する。 第5回目に指導された事柄を復習して練習する。特に、歌うという観点から、美しい発声、表現力あるいは美しい日本語での発声について復習しておく。
第6回	個人指導を中心とした弾き歌い④ レパートリーを増やすために新しい課題について練習する。その際子どもの発達や興味関心、歌わせる季節などを考えながら教材選択を行う。 トーンチャイムの演奏方法② 可能な場合、実際にトーンチャイムの練習を行う。 各自の感想・意見などをディスカッションする。	事前学習	第5回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第6回目に指導された事柄を復習して練習する。鑑賞した実践教育のVTRについて、感想や意見などをまとめておく。
第7回	個人指導を中心とした弾き歌い⑤ 特に子どもにとって美しい発声で歌いながら伴奏することに重点を置く。 トーンチャイムの演奏③ 可能な場合、トーンチャイムを用いたアンサンブル練習を行う。	事前学習	第6回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第7回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルで使う楽器についてその演奏の仕方を復習しておく。
第8回	個人指導を中心とした弾き歌い⑥ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。また、楽譜通りの伴奏が困難な学生はコードによる伴奏を試みる。 トーンチャイムの演奏④ 可能な場合、トーンチャイムを用いたアンサンブル練習を行う。その際、ただ単に音を出すだけでなく、美しく音楽作りができるよう考える。	事前学習	第7回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第8回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの記譜法について慣れる。
第9回	個人指導を中心とした弾き歌い⑦ 次回発表の課題を課し、指導された注意点に気を付けて練習する。 トーンチャイムの演奏⑤。 可能な場合、トーンチャイムでの演奏発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。	事前学習	第8回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第9回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
第10回	ピアノ弾き歌い発表演奏 子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。 総合的活動の企画① 子どもの歌を題材にして、どのようなパフォーマンスを行うか企画する。 具体的に、身体表現を中心としたもの、人形劇、影絵、ペープサート、マリオンネットまたはそれらの組み合わせなどを考える	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。特に美しく歌うことに重点を置いて学習することが求められる。
		事後学習	第10回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌いをしている最中に止まってしまう箇所、などには特に留意して、歌うことに重きを置いて練習する。
第11回	個人指導を中心とした弾き歌い⑧ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 子どもの歌の歌唱を通し、どのように音楽的表現を行うか考える。 総合的活動の企画② 使用する楽器、役割、必要な材料などを考え、制作、練習に入る	事前学習	第10回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第11回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。止まらないよう、歌を中心にして、もしピアノが止まっても、歌を歌って続けて、入ってこられる部分から、ピアノ伴奏ができるよう練習する。
第12回	個人指導を中心とした弾き歌い⑨ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 子どもの歌の歌唱を通し、より深く音楽的表現を考える。 総合的活動の企画③ 使用する楽器、役割、必要な材料などを考え、制作、練習を行う	事前学習	第11回目に練習した曲、または新しい曲を練習しておく。同じ曲を、完璧に弾けるようになるまですることよりも、ある程度弾ければ新しい曲に挑戦する気持ちを持つ。 手作り楽器のために必要な材料を準備しておく。
		事後学習	第12回目に指導された事柄を復習して練習する。特に弾き歌いに関しては、止まらない、美しく表現することを考えて歌う
第13回	個人指導を中心とした弾き歌い⑩ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 総合的活動の企画④ 発表に向けての練習	事前学習	第12回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第15回目の弾き歌い発表演奏のための曲ばかりを練習しないよう、できる

			限り多くのレパートリーが持てるようにしておく。
		事後学習	第13回目に指導された事柄を復習して練習する。手作り楽器の音の出る原理について復習しておく。
第14回	個人指導を中心とした弾き歌い⑩ 次回発表する曲について、指導を受けた箇所を注意し、特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意しながら練習する 総合的活動の企画⑤発表と学生同士の評価	事前学習	第13回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第15回目の弾き歌い発表演奏の曲を決めて練習を始める。
		事後学習	第14回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。特に第15回目に演奏する曲で留意する点を考えておく。
第15回	弾き歌い発表 これからの音楽の学習、音楽と共にある人生について、学生へのメッセージを送る。 学生による授業評価	事前学習	今までに学習してきた弾き歌いの曲で、最も良く弾ける曲を仕上げる。
		事後学習	第15回目に指導された事柄を復習して練習する。今後の練習について、授業がなくなっても続けていけるよう今後の学習計画を立てる。